

～読んでみない？こんな本～

## ごきげんな らいおん

ルイーズ・ファティオ文 むらおかはなこ訳 福音館書店



これはフランスのある動物園に住んでいる“ごきげんならいおん”のおはなしです。ある朝らいおんは、自分の家の戸が開いているのに気づきます。飼育係がうっかり鍵を閉め忘れたのです。「ふーん、これはまずいな」…そうです。このままでは、誰かが入ってきてしまうかもしれません。でもらいおんは、ちょっと考え直します。「ぼくのほうからでかけて、まちのひとたちに あいにいってこよう」

けれどもいつも檻の向こう側から挨拶をしてくれる町の人達は、町でらいおんに会うと、気絶するやら、逃げ出すやら、物をぶつけるやら。いつも礼儀正しいこの町の人達は、いったいどうしたんだ？らいおんは驚くばかりです。挨拶のできる友達に会えないものかとあちこちを歩き回るのでありますが…。

音楽が好きで、礼儀正しい“ごきげんならいおん”は、動物園の自分の家を出たことで町の人達を怖がらせているなんて、思ってもいません。らいおんの側から見れば、いつも礼儀正しい人たちが、急に態度を変えて逃げ出したりしてしまう方が不思議なことなのです。らいおんはごきげんなままなのに、檻の中にいるか外にいるかで、こんなに違う態度をとられるなんて…そんなユーモアを交えながら話しは進み、最後には本当の友達が出てきてめでたし、めでたし。このらいおんの続きのお話しも、何冊か出ています。